

ほ うす の ひ ぎ

谷川俊太郎・作
梶山俊夫・絵



作者紹介

谷川俊太郎(たにかわ・しゅんたろう)

1931年、東京に生まれる。詩人、翻訳、童話、創作わらべ歌など幅広く活躍。詩集『二十億光年の孤独』以来、次々と作品を発表し、ことばをめぐる新しい試みは、童話や絵本のジャンルにも新機軸を打ち出す。サンケイ児童出版文化賞、日本翻訳文化賞、赤い鳥文学賞、読売文学賞、斎田喬戯曲賞、野間児童文芸賞、小学館文学賞、丸山豊記念現代詩賞、萩原朔太郎賞、朝日賞など多くの賞を受賞。絵本に『これは のみのびこ』(サンリード)、『よるのようちえん』『あいうえお うた』(福音館書店)、『これは あっこちゃん』(ピリケン出版)など多数ある。

梶山俊夫(かじやま・としお)

1935年、東京に生まれる。読売アンデパンダン展などで絵画活動をする。その後、絵本の世界に入り独特の画風で幅広く活躍。シェル美術賞、ブラチスラバ国際絵本原画展金のりんご賞、講談社出版文化賞、小学館絵画賞、絵本につぼん大賞、市川市市民文化賞奨励賞など多くの賞を受賞。絵本に『くじらのだいすけ』『かぜのおまつり』(福音館書店)、『いちにちにへんとおるバス』(ひかりのくに)、『あほろくの川だいこ』(ポプラ社)、『こんこんさまにさしあげそうろう』(PHP研究所)、『島ひきおに』(偕成社)、『あめあがり』(小峰書店)など多数ある。

ほうすけのひよこ

1999年11月 1 日 初版発行

文・谷川俊太郎 絵・梶山俊夫

発行 (株)解放出版社

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12 電話06(6561)5273

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-9 稲垣ビル 電話03(3291)7586

印刷 丸山印刷株式会社

ブックデザイン 森本良成

©Syuntaro Tanikawa & Toshio Kajiyama 1999

NDC726 32P 31cm

ISBN4-7592-2218-9

落丁・乱丁はお取りかえいたします。

初刊 1980年 銀河社

ほうすけのひよこ

谷川俊太郎・作 梶山俊夫・絵

江苏工业学院图书馆
藏书章





こだかいおかの、
ひあたりのいい
しゃめんに、
このむらの
ほちがある。

はかは いつもみな
そうじが ゆきとどいている。
はるからあきにかけては、
どのはかにも
はなのたえることがない。
もう ちすじのとだえてしまった
ふるいはかにも、はなが そなえてある。



ほうすけの しわざだろうか。
だれも たしかめたものは いないが。







ほうすけは

むらはずれの

ほらあなに、

ひとりですんでいる。

ほうすけが

どこからきたのか、

だれもしらない。

ほうすけが いつからいるのか、

だれもしらない。

ほらあなのなかで ほうすけが

どんなくらしをしているのか、

むらのおとなたちは

ちかよりもしない。

だが こどもらは、ときどき

おつかなびつくり

ほらあなを のぞきにいく。

ほらあなのなかは

くらくて よくみえない

.....。





よめいりがあると、ほうすけは
きまつて むらへやってくる。
みちばたにつつたつて、ほうすけは
いいこえで うたをうたう。

つきはしろがね

おてんところがね

はれ

ゆめにこえゆく

とうげみち――

そのうたをきくと、

むらのおとなたちは みんな

うまれるまえのことを おもいだすような、
せつないきもちになる。

「また、ほうすけがうたつてら」

かおをみあわせて、

むらびとたちは

しばらくしんとして

みみをすます。



そうしきのときも、ほうすけは
やつぱり むらへやつてくる。

みちばたにつつたつて、ほうすけは
たのまれもしないのに うたをうたう。

ひねもす はたおり とんとんからり
かぜのゆくえは そらにきけ――

そのうたをきくと、むらのおとなたちは みんな
しんだあとのことを ゆめにもてるような、
ふしぎなきもちになる。

「また、ほうすけがうたつてら
かおをみあわせて、むらびとたちは
しばらくしんとして
みみをすます。



むらでは ときどき いつのまにか、
ちよつとしたものが なくなることがある。

ほしておいたものが

いつつ むつつか、

あかんぼのおむつの

いちばんほろのが いちまいとか、

すててもいいような、

かけたおわんが 一つとか。

そんなとき むらびとたちは、

「ねずみがやいたか、

とんびがにたか、

それとも ほうすけかじったか」

といつて わらつている。









あるとしのこと、
もうすぐ

はるになるうというのに
このちほうには

めずらしく

なんにちも

ゆきがふりつづいた。

いろりばたにあつまつて、

なわをなつたり

まめをよつたりしながら、

むらびとたちは

はるのたねまきの

おくれることを、

しんばいしていた。

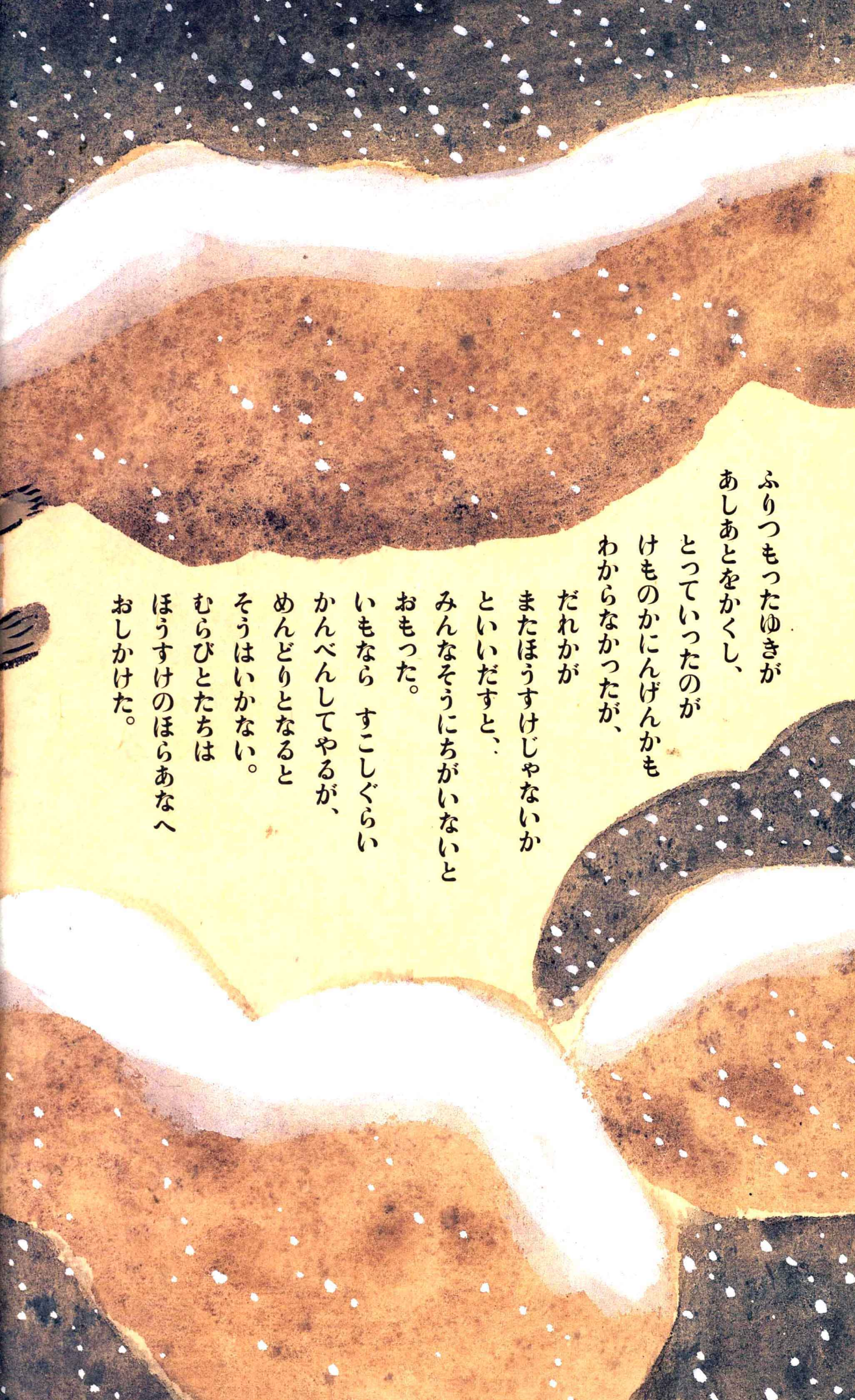
そんなあるばん、

しもの

よきちじいさんのいえから

めんどりが

いちわぬすまれた。



ふりつもったゆきが
あしあとをかくし、

とつていったのが

けものかにんげんかも

わからなかったが、

だれかが

またほうすけじゃないか

といいだすと、

みんなそうにちがいないと

おもった。

いもなら すこしぐらい

かんべんしてやるが、

めんどりとなると

そうはいかない。

むらびとたちは

ほうすけのほらあなへ

おしかけた。

